

両目同時も可能な白内障日帰り手術 最新の視力矯正治療「ICL」が好評



将来的には眼科医をはじめ視能訓練士などスタッフの増員も図りつつ、患者一人ひとりに対して、よりきめ細かい診療を行い、地域に密着した眼科医療を提供していきたい、と加藤院長は語る

「患者さんの目線に立った診療姿勢と、大病院レベルの高度な眼科医療を提供し、地域医療に貢献したい」と話す加藤祐司院長。旭川医科大学眼科講師及び医局長としての豊富な経験と実績を持ち、白内障手術や加齢黄斑変性治療をはじめ、高度な技術が必要な網膜復位術、網膜硝子体手術を得意とし、網膜剥離や糖尿病網膜症も含め、ほぼ日帰りで手術を実施。開院から約1年で白内障手術約500例、硝子体手術約50例を行う。

なかでも白内障手術では、通常の単焦点と乱視矯正眼内レンズのほか、遠近両用の多焦点眼内レンズ(自費診療)にも積極的に取り組む。さらに、道内でも数少ない両目同時手術にも対応している。

また涙目(流涙症)の治療に精通し、赤ちゃんの先天性鼻涙管閉鎖症に対する涙道プジー法、札幌市内でも数少ない涙管シリコンチューブ挿入術と涙のう鼻腔吻合術の

日帰り手術も行い、患者は道内各地から訪れる。

さらに近視治療にも力を入れ、角膜をコンタクトレンズで矯正する「オルソケラトロジー」(自費診療)をはじめ、2012年9月から最新の視力矯正手術「ICL」(自費診療)も実施している。ICLはこれまで角膜を削ることが難しいとされてきた強度の近視や角膜が薄い人にも有効な治療法で、道内では4カ所の厚生労働省認定クリニックでのみ治療が可能だ。手術は約3mmの小さな切開創からコラーマという親水性素材のコンタクトレンズを水晶体と虹彩(黒目)の間に挿入、固定するというもの。コラーゲン由来で生体適合性の高い素材で安全性も高く、手術時間も片目約15分と短時間で、その日から裸眼で過ごせると好評。「眼鏡やコンタクトレンズがわずらわしいという方にお勧めです」と加藤院長は話す。



①手術室は空調管理から医療機器や器材の滅菌・消毒はもちろん、治療器具は患者ごとにディスポ(使い捨て)製品を使用し衛生管理を徹底
②スタッフの親切丁寧な対応も好評。待ち時間短縮のため、電話予約システムも導入
③イオン札幌元町ショッピングセンター前。第2・4日曜も診療。駐車場完備。術後や通院困難な方には送迎サービスも実施

院長
加藤 祐司氏
旭川医科大学卒業。釧路赤十字病院眼科副部長、旭川医大眼科講師・医局長を経て、2011年7月開院。日本眼科学会専門医。眼科光線力学的療法認定医。医学博士

札幌かとう眼科

<http://www.katoganka.jp/>

札幌市東区北31条東16丁目22
☎011-780-2111

眼科

診療時間/
月・火・水・金 9:00~12:00 15:00~18:00
土曜 9:00~14:00
日曜(第2・4) 9:00~14:00
休診日/木曜・日曜(第1・3・5)・祝日
最寄りアクセス/
地下鉄東豊線新道東駅から徒歩5分